

チャレンジ精神で 女性が輝く社会の実現へ

—安倍晋三総理は「すべての女性が輝く社会づくり」を掲げています。女性が輝く社会についてのお考えは。

片山 私は、「輝く」という言葉が、すごく素敵だと思っています。例えば、仕事でキャリアを目指す人がいれば、家事、育児に頑張ったり、地域や社会貢献に頑張る人もいます。それぞれ、目標や、やりがいを見いだせるといった意味が「輝く」には込められているのだと思います。これが、「ああしなさい」「こうしなければだめ」と強制されるキャッチコピーだったら、誰も見向きはしません。

私は、党の国際情報検討委員会の委員長代行を務めています。実は、クールジャパンで最も流行っているキーワードの一つは「KAWAII」で、日本発のかわいいメークに世界の若い女性が憧れているのです。「輝く」や「KAWAII」と同様に、いろんな解釈ができる言葉を使って、一人ひとりのモチベーションを高めていく。こうした情報の発信のしかたは重要ですね。

片山 チャレンジ精神を持つことではないでしょうか。私は女性初のG7サミット政府代表団員や大蔵省(現・財務省)主計局主計官などを歴任してきました。今までの男性中心の社会に切り込んでいくと、それがやりにくくなります。ただ、世の中の半分は女性なのに、その声がなかなか政治に反映されていないのは残念です。日本が世界の真ん中で輝くためには、私たち女性議員が頑張らなければなりません。

—女性政策については。

片山 平成25年の平均寿命は、男性が初めて80歳を超えました。女性は、さらに長く86・61歳です。人生90年代を迎え、女性が一番不安を感じていることは何か。それは、寝たきりになることや、自分一人ではどうすることもできない状態が長引くことです。年齢を重ねても家族や子供には迷惑をかけず、自分でできる範囲で社会とのつながりを持ちたい高齢者はものすごく多い。こうした女性の悩みを解消することが幸せな国家経営で、その実現のためにはやはり財政の健全化が不可欠です。

安定政権でアベノミクスの恩恵を全国に波及させる

—昨年12月に投票された衆議院議員総選挙を振り返っていかがですか。

片山 12月2日の公示以降、応援演説で50選挙区ほど日本各地を飛び回りました。そこで実感したのは、自民党の長期安定政権を望む声です。

小笠原諸島のサンゴ密漁問題や、中国や北朝鮮など周辺諸国との関係、イスラム圏のテロなど、外交・安全保障に不安を抱える国民が増えています。また、為替や原油価格も先行きが不透明で、「この変動要素を何とかしてほしい」と、安定した政治に期待する声が多かったですね。

—アベノミクスについては。

片山 今回の総選挙で自民党が勝利した要因の一つは、国民の皆さんが日本経済に強い危機感を持っていただいたことです。民主党政権で衰退した日本経済は、アベノミクスの経済政策や日銀の異次元の金融緩和によって、株価は上昇し、為替は円安基調になりました。しかし、アベノミ

クスの恩恵を全国に波及させ、国民の皆さんの収入を増やすには、まだ時間がかかります。今が最大の難所です。ここで企業も個人も踏ん張ることができれば、みんなが安心してお金を使える社会になるのです。そのためにも、アベノミクスの継続が不可欠です。

安倍政権は、消費税の税率10%への引き上げを1年半先送りすることを決め、退路を断りました。アベノミクスの成否である賃上げや、税と社会保障の一体改革を実現するには、なんとしても平成29年4月までに経済を安定させねばなりません。そのためには、あらゆる知恵、政策を総動員し、最大限努力するとともに、国内の景気を刺激するサブプライズが必要です。

—経済を好循環させるのに有効なサブプライズとは。

片山 例えば、消費者の購買意欲がかきたてられる、企業が投資したくなる、といった大胆な制度です。「今お金を使わなければ損」と誰もが感じる思い切った策を講じていかないと、経済は動かないと思います。

読者が自民党を身近に感じられる情報を発信していきたい

—自民党の新聞出版局長に就任されて4カ月が経ちますが、党の政策や活動を発信するうえで、大切にされていることは。

片山 国民の目線に立った情報発信です。新聞出版局では、「りぶる」のほかに、新聞の「自由民主」を発行しています。

この2つを読めば、自民党や世の中の動きがわかります。しかし、今後はさらに一歩踏み込んで、読者が自民党をもっと身近に感じる内容に迫りたいと思っています。

そのためには、新しい切り口が不可欠です。地域商店街活性化事業(にぎわい補助金)は、自民党主導で成立させた政策です。例えば、その補助金を活用した商店街取材し、生の声を紹介するのが、わが党の政策によって、実際の地域がどのようになっているのか、読者にもよく伝わるのではないのでしょうか。

また、自民党には政策のエキスパートが多く、たくさんの方の議員立法を国会に提出しています。その法案をどの新聞や雑誌よりも早く、自民党の広報媒体で取り上げるのです。政策の内容を分かりやすく紹介するのはもちろんですが、ポイントが法律が変



愛着が深まり、それを誰かがツイッターでつぶやけば、「りぶる」や「自由民主」は口コミでどんどん広まっています。

これだけインターネットが世界中で普及しているわけですから、情報発信のあり方も、ひとつ前はと違ってきています。例えば、NATO(北大西洋条約機構)のラスムセン事務総長なども、頻りに安全保障などをツイートしています。なぜ、こうした軍事機密なことまでツイートする必要があるのであるのか。それは、起こっていることを隠さずオープンにすることで、人々の不安によるパニックを防ぐ役割があるからです。

私もツイッターをしていて、現在17万人以上の方にフォローしていただいています。この数字は、安倍総裁、河野太郎衆議院議員に次いで、党内で3番目です。また、動画サイトに「さつきチャンネル」を開設し、毎週金曜日には国民の皆さんに発信しています。こうした発信力

ら、情報発信のあり方も、ひとつ前はと違ってきています。例えば、NATO(北大西洋条約機構)のラスムセン事務総長なども、頻りに安全保障などをツイートしています。なぜ、こうした軍事機密なことまでツイートする必要があるのであるのか。それは、起こっていることを隠さずオープンにすることで、人々の不安によるパニックを防ぐ役割があるからです。

デフレから脱却し 国民が好景気を実感できる年に

—新しい年を迎え、平成27年の抱負をお聞かせください。

片山 今年の干支は、乙未です。60年前(1955年)の乙未の年に、自民党が誕生し、日本社会党との二大政党による55年体制がスタートしました。さらに、その60年前(1955年)は、日清戦争後の下関条約に調印しています。乙未は、こうした大きな出来事がある年です。そのため、今年は外交・安全保障など、何が起ころうともいえないように万全な態勢に努めていきたい。

また、60年前は神武景気の頃でもあったので、今年は国民が好景気を実感できる年にしていきたいと思っています。

—最後に「りぶる」読者にメッセージを。

片山 私も推薦団体が増えてきましたので、女性の多い団体には「りぶる」の購読をお願いしていきます。新聞出版局長として、一人でも多くの方に読んでいただきたいと思いますので、「りぶる」読者の皆さんもご協力をお願いします。



片山さつき参議院議員のtwitter
https://twitter.com/katayama_s

